

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号	3 2 6 0 4	2. 研究機関名	大妻女子大学																													
3. 研究種目名	挑戦的萌芽研究																															
4. 補助事業期間	平成24年度～平成25年度																															
5. 課題番号	2 4 6 5 3 1 2 5																															
6. 研究課題	震災に関する民衆知／民俗知の意義と応用可能性に関する比較社会学的研究																															
7. 研究代表者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究者番号</th> <th>研究代表者名</th> <th>所属部局名</th> <th>職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 0 2 4 0 3 4 5</td> <td>ヨシハラ ナオキ 吉原 直樹</td> <td>社会情報学部</td> <td>教授</td> </tr> </tbody> </table>				研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名	4 0 2 4 0 3 4 5	ヨシハラ ナオキ 吉原 直樹	社会情報学部	教授																				
研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名																													
4 0 2 4 0 3 4 5	ヨシハラ ナオキ 吉原 直樹	社会情報学部	教授																													
8. 研究分担者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究者番号</th> <th>研究分担者名</th> <th>所属研究機関名・部局名</th> <th>職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 0 1 6 4 8 3 5</td> <td>ハセベ ヒロシ 長谷部 弘</td> <td>東北大学・経済学研究科（研究院）</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>6 0 4 5 5 1 1 0</td> <td>マツモト ミチマサ 松本 行真</td> <td>福島工業高等専門学校・コミュニケーション情報学科</td> <td>准教授</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名	5 0 1 6 4 8 3 5	ハセベ ヒロシ 長谷部 弘	東北大学・経済学研究科（研究院）	教授	6 0 4 5 5 1 1 0	マツモト ミチマサ 松本 行真	福島工業高等専門学校・コミュニケーション情報学科	准教授																
研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名																													
5 0 1 6 4 8 3 5	ハセベ ヒロシ 長谷部 弘	東北大学・経済学研究科（研究院）	教授																													
6 0 4 5 5 1 1 0	マツモト ミチマサ 松本 行真	福島工業高等専門学校・コミュニケーション情報学科	准教授																													

9. 研究実績の概要

研究実施計画にもとづいて、メンバー全員で福島県立図書館および福島県県政情報センターで関連資料の閲覧および関連資料の収集をおこなった。また、別途研究プロジェクトで刊行した資料集『パリ島に生きる古文書』のうちの震災に関する民衆知／民俗知の部分を集成し、論点の抽出にとづめた。これらは、簡易の資料集として作成し、メンバー間で共有している。

個別の作業では、吉原が会津若松市の大熊町仮設住宅の住民にたいするアンケート調査で、また松本がいわき市の相双地区からの避難民にたいするアンケート調査で、それぞれ前記民衆知／民俗知の継承に関する項目を独自に立てた。現在、回収が終わり、その集約結果を検討中である。なお長谷部は、上記の作業とは別個に南相馬地区的災害文書の収集をおこなっている（現在、進行中）。

インドネシア・パリにおける関連調査は、今年度はバイロット・スタディに終始した。現在、そこで得た知見を整理中であるが、同時に、国内調査で得た知見とのすりあわせが次年度の研究実施計画との関連で緊密な課題となっている。

なお、この間、吉原は日本学術会議社会学小委員会主催のシンポジウムおよび東北都市学会の2012年度大会シンポジウムで、成果の一部を中間成果報告という形で報告した。これらは『学術の動向』および『東北都市学会研究年報』でその抄録が掲載されることになっている。